

これまでの主要議論の概要等

事項	これまでの主要議論の概要	残されたポイント
<p>実用化に向けた重点化分野の考え方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>技術の有用性</u>との観点から、遺伝子組換え技術でなければ実現できないものを対象とすべきとの意見があった。 ・ <u>政策的な重要性</u>の観点から、食料自給率への貢献やバイオマス燃料用での利用に仕向けるべきとの意見があった。また、バイオマス燃料用は食用と競合しないものに限定すべき、燃料加工技術が重要との意見があった。 ・ <u>消費者への受け入れ</u>との観点から、口に入るものかどうか（食用か非食用か）が重要であるとの意見があった。 ・ <u>消費者メリット</u>の観点からは、食味向上や機能性食品、あるいは特定需要が見込まれる医薬品向けが考えられるとの意見があった。また、医薬品向けは制度上クリアすべき条件が多いとの意見があった。 ・ <u>生産者メリット</u>の観点からは、国内農業の低コスト化・省力化につながる作物の育成が重要との意見があった。 ・ <u>知的財産戦略</u>の観点から、国内栽培向けでなく、海外での（許諾）利用も考えるべきとの意見があった。 	<p>○重点化分野の考え方の切り口として、左記以外の観点はあるか。</p> <p>○それぞれの切り口について、プライオリティ付けが可能かどうか。</p>
<p>基礎・基盤研究のあり方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 将来を見据えつつ、海外とも伍していけるよう、<u>基礎・基盤研究</u>をしっかりと行うべきとの意見があった。また、<u>基礎・基盤研究は国が主導すべき</u>との意見があった。 ・ <u>安全性評価や交雑防止のための基礎研究</u>は、国民の関心にも応えるもので、重要であるとの意見があった。 	<p>○中長期的な視点に立った基礎・基盤研究のあり方をどう考えるべきか。</p> <p>○基礎・基盤研究においても、実用化をにらみ重点化を図るべきではないか。</p>

<p>実用化に向けたプロセスと研究システムの改革</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>独法間あるいは独法・民間企業・大学間の連携が十分に図られていないのではないかとの意見があった。</u>また、<u>医薬品向けを想定するような場合には、開発者はできるだけ早期に生産販売する企業との連携を図るべきとの意見があった。</u> ・ <u>国は都道府県研究機関を支援すべきとの意見があった。</u> ・ <u>民間企業は、国内環境の厳しさから、現時点においては明らかに国内市場を志向していないのではないかとの意見があった。</u> ・ <u>実用化に向けてマーケティング戦略が欠落している、実用化と商品化を分けて考えるべきとの意見があった。</u> ・ <u>他作物との交雑や混入を防止するため、遺伝子組換え農作物の管理の徹底が重要であるとの意見があった。</u>また、<u>隔離距離等に関する我が国統一的なルールが必要との意見があった。</u> ・ <u>安全性評価等に係る規制緩和が必要との意見があった。</u> ・ <u>サイエンスコミュニケーターやフードスペシャリストのような一般の人に説明ができる専門家の人材養成が重要であるとの意見があった。</u> 	<p>○左記以外に、効率的・計画的な育種システムの構築に向けた措置を考えるべきではないか。</p> <p>○研究の円滑・迅速な橋渡しシステムに向けた措置を考えるべきではないか。</p>
<p>国民意識と理解醸成に向けた取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>我が国国民は、すでに長期間、組換え体を食べることから、ことさら根強い抵抗感はないのではないかとの意見があった一方で、直接口にするものへは強い拒絶感があるのではないかとの意見があった。</u> ・ <u>不信感解消のためには、遺伝子組換え技術のデメリットも含めて、国民への正確な情報提供が重要であるとの意見があった。</u>また、<u>遺伝子組換え技術が万能ではないことも知らしめることが重要であるとの意見があった。</u> 	<p>○国民意識の状況に関する検証をさらに進めるべきではないか。</p> <p>○国民理解増進活動の取り組み強化に向けて、研究開発部門はどうあるべきか。</p>